

第 4 回
新市建設計画策定検討小委員会
会議録

開会 平成16年6月14日(月)

閉会 平成16年6月14日(月)

那賀5町合併協議会

第4回新市建設計画策定検討小委員会索引

付 議 議 件 名	頁 数
1. 開 会	1
2. 委員長あいさつ	〃
3. 会議録署名委員の指名	〃
4. 報告事項	
・ 前回小委員会での意見及びその対応状況について	1
5. 協議事項	
新市建設計画基本構想（案）について	3
その他	2 3
6. その他	
次回開催日等について	2 8
7. 閉会	2 8

第4回新市建設計画策定検討小委員会会議録

開催年月日	平成16年6月14日(月)		
開催場所	打田町保健福祉センター 3階 大会議室		
開会及び閉会時間	開会 午後3時00分	閉会 午後4時45分	
会議録署名委員	藤永知宏	宇田寛	
議長	丸井幸次		
出席並びに欠席委員 出席 9名 欠席 1名 凡例 出席 × 欠席	委員氏名		出欠
	委員長	丸井幸次	
	副委員長	上野富一	
	委員	藤永知宏	
	委員	増田敏郎	×
	委員	千田弘	
	委員	武部善次	
	委員	松井信雄	
	委員	岡田邦夫	
	委員	宇田寛	
	委員	河上泰三	
	合併協議会 事務局	事務局長	黒田敏弘
事務局次長		奥谷敏夫	
事務局参与		小島大	
総務課長		栗山房大	
調整課長		狭間秋友	
計画課長		岩坪純司	
計画課長補佐		杉本太	
総務課長補佐		半田雅巳	
総務課長補佐		乾浩二	
会議の経過	別紙のとおり		

事務局
(計 画 課 長
岩坪純司)

みなさん、こんにちは。ご案内の時間となりましたのでただ今から第4回新市建設計画策定検討小委員会を開催させていただきます。なお、前回は協議会終了後の開催ということで、大変長時間になりご苦労様でございました。それでは丸井委員長議事よろしくお願いいたします。

議長
(丸 井 幸 次)

前回は協議会終了後の開催でございましたけれども、本当にご苦労さんでございました。

ではただ今から会議に入らせていただきます。本日の協議事項は新市建設計画構想案を中心に協議をお願いいたしたいと存じます。時間的なこともあります。報告事項、協議事項について議事がスムーズに進行できますよう委員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

では、早速であります。会議次第に従いまして進めさせていただきます。なお、本日の出席議員は9名であります。小委員会規程第5条第2項の規定3分の2以上の委員の出席がございますので、本日の会議は成立しておりますことをまずもってご報告いたします。なお、粉河町の増田委員より欠席の旨の通知がございました。あわせてご報告申し上げます。

引き続きまして会議次第第3番の本日の会議の会議録署名委員を指名させていただきます。打田町の藤永委員、桃山町の宇田委員をお願いをいたしたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

それでは次の会議次第第4番の報告事項に移らせていただきます。前回小委員会での意見及びその対応状況について、事務局から説明を求めたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

事務局
(計 画 課 長
岩坪純司)

はい。それではご報告させていただきます。申し訳ございません、座らしていただいてご報告します。前回小委員会での意見及びその対応状況についてのご説明と、第2回小委員会終了後に実施しましたタウンウォッチングについて皆様からいただきましたご意見を取りまとめたのでご紹介させていただきます。まず前回小委員会での意見及びその対応状況についてであります。会議資料の3ページ、4ページをお開き下さい。河上委員より第2回小委員会での発言の一部について誤りがあるのではないかとのご指摘がございました。これにつきましてはすでに会議録も調整できておりますので、確認したところ大学を誘致することを考えていってもよいのではないかとこの発言はございませんでしたので、削除し改めてお詫び申し上げます。次に新市建設計画基本構想たたき案について多くの意見がございました。事務局といたしましては委員皆様方から出されたご意見、ご提言を策定会議の皆さんと検討し、今回の修正案にできるだけ反映させていただいたつもりでございます。これにつきましては後ほどご協議をお願いいたします。なお委員皆様のご意見は変更箇所等の説明の所で行いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

引き続きましてタウンウォッチングの感想や有効利用等意見を5ページ以降に添付させていただいております。5町の施設を見学させていただいたわけですが、5ページには皆様のご意見を要約しまして施設ごとに感想、今後の方向、課題の3点に分類し掲載しております。いずれ

の施設も新市において必要な施設であるということが伺えます。未利用になっている工業用地への誘致活動の重要性や特に5町基幹産業でもある農業と関連して、種苗会社の誘致等地域の実情に即した取り組みの必要性も今後の方向として出されております。また観光、文化、歴史的な施設として紀伊国分寺跡や青洲の里の今後の利用、活用について周辺整備、PR活動を充実することにより施設としての価値がより一層高められるのではないかとといった意見もいただきました。粉河ふるさとセンターは文化芸術振興の拠点施設として、桃山町保健福祉センターは福祉の拠点施設としての位置づけも意見として出されてございます。更に貴志川町の平池周辺整備につきましては、自然、文化、歴史が共存する施設と捉え周辺施設との一体整備を図ることにより更に期待が持てる施設に生まれ変わるのではないかとといった意見も出されております。その他粉河給食センター、那賀町のアメニティセンター、貴志川町シルバー人材センターにつきましても貴重なご意見をいただきました。施設を管理運営していくのに課題も山積しております。民間委託を検討してはどうかというようなご意見もございしますが、これについても十分検討していく必要があるかと思っております。時間の都合もございしますので要約しましたところをご紹介させていただきました。6ページ以降には委員意見の原文もつけてございしますので、ご覧いただければ幸いです。以上でご説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長
(丸井幸次)

はい、ただ今説明がありました報告事項、前回小委員会での意見及びその対応についてと、タウンウォッチングの意見について委員の皆様のご意見をうかがいたいと思います。何かご意見ございませんか。何か。

委員の皆さんの率直なご意見を一応まとめさせていただいております。これも大事、今後新市建設計画を作っていくためにも大事なことだと思いますので、何か。ないですか。ないですか。よろしいですか。ございませんか。はい、特にご意見がないようでございしますので、前回の会議内容はこれでご確認いただけたと承知いたします。また、タウンウォッチングで訪問させていただきました各施設の感想、今後の方向、課題は今後新市建設計画を策定する上で大変貴重な資料になるかと思っております。ありがとうございます。第3章の新市のまちづくり施策、主要事業、それから第4章の公共的施設の整備方針、この時にこれらを協議していただきますので、よろしくお申し上げます。

次に本論であります。協議事項に移らせていただきます。新市建設計画基本構想案についてであります。前回小委員会委員の皆様から出された意見を事務局で検討し、修正案として取りまとめたいただきました。まず始めに変更した箇所を説明していただきたいと思っております。それについて後ほど協議していくということによろしいでしょうか。特にご意見がございませんので、事務局の方から説明をしていただきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

はい。まず始めに今回お送りして修正案の作業方法についてご説明をいたします。5月28日の第3回小委員会委員皆様からお出しいただきました意見や細部にわたる文章表現についての協議を6月3日の

策定会議で行ってございます。また今回カラーで印刷をしたものをお配りしてございますが、更に事務局で修正が必要と思われる箇所を赤字で修正を加えております。傍聴の皆様方にお渡ししてます資料はカラー印刷ではございませんので、非常に見づらいという風に思いますがご勘弁いただきたいと思えます。従いまして今回の協議は赤字で修正したところも含めご検討をしていただきたいという風に考えます。委員長、ちょっとよろしいですか。

議長
(丸井幸次)
事務局
(計画課長
岩坪純司)

はい、どうぞ。

ページ数が非常に多いので4つぐらいに区切らせていただいて、それをご検討していただくという形式をとらせていただいてよろしゅうございますか。

議長
(丸井幸次)
事務局
(計画課長
岩坪純司)

はい、はい、いいですよ、どうぞ。

それではまず3ページから9ページについてご説明いたします。3ページの変更点は(1)の合併の必要性で桃山町が昭和32年8月に細野村の一部を編入して現在の町となっていますことから2行目なんですけども、32年を追加してございます。また、のところではこのように赤字で再修正を行っていったらどうかという風に考えております。他は細部の文章表現だけの変更でございます。

それから4ページでございます。4ページの がありますが、パーセントとポイント数を小数点以下の一位に変更をしてございます。また少子高齢化の状況がどのようになっているかの記載も必要と考え、この項目の最後4行に追加いたしました。更にたたき案では最後に行政においても合併によって産業基盤や生活基盤の充実に対して総合的、機動的に取り組むことが求められますという風な文章表現をしておりましたが、だぶっているくらいがございましたのでこの文章は削除してございます。その他大きな変更点は行ってございません。

5ページについても同様です。

6ページ、7ページであります。 の1行目に和泉山脈となっておりますが、たたき案では和泉葛城山脈と記載してございました。正式には和泉山脈が正しいかと思えますので、このページ以降全てに変更をかけてございます。また、紀ノ川の表現につきましても平仮名の、カタカナのノの両方が使われていますが、ここでは平仮名ののに統一をしてございます。 の自立的で個性豊かな地域の創造であります。たたき案では の地域課題の一体的解決の部分と重複した記載があったかと思えます。今回の修正では地域資源等のネットワークを図ることによりより一層この地域のポテンシャルが高められるとした内容に変更してございます。

それから8ページ、9ページをお開き下さい。ここには4月から5月にかけて実施しました住民意識調査の結果内容について次の3項目を記載していきたいと考えてございます。住民の意識と計画課題としてます関係から、問4-2のもっとしっかりやってほしい行政分野、それから

	<p>問9の合併に期待する新市の将来像、問10の住民が望む合併後の重点施策といたしてございます。中間報告の数字とは大差ございませんが、いずれも上位にきてる項目を列挙し、取りまとめてございます。これを掲載することにより、住民の意向がある程度わかるかと思しますので、計画書の展開がしやすくなると思います。また各設問に対するコメントを入れますと非常にくどくなってくるという風に事務局では考えましてそれは控えてございます。以上変更点等につきましては以上でございます。</p>
<p>議長 (丸井幸次)</p>	<p>はい、ただ今事務局から説明がありました。これについて何かご質問ございませんか。何かご意見ありませんか。今全ての修正まではいってないんですけども、何か事務局特に他に付け加えることはないですか。</p>
<p>事務局 (計画課長 岩坪純司)</p>	<p>はい、特にはございません。一応その策定会議の中で色々意見もあったわけなんですけども、こういう風な形で取りまとめていってはどうかというようなことでございますので、特に意見ということはございません。</p>
<p>議長 (丸井幸次) 委員 (上野富一)</p>	<p>藤永委員さん何かないですか。特にないですか。上野さんも。 ちょっと難しいモータリゼーションという言葉が入ってるんですよ。3ページの方で交通基盤の整備やモータリゼーション、これはもう簡単に車社会とかそういう簡単な文章、この部分ぐらいしてもらえたらなと思います。</p>
<p>議長 (丸井幸次)</p>	<p>そのようにわかりやすい言葉に事務局修正してもらえますか。松井委員さん何かございませんか。</p>
<p>委員 (松井信雄)</p>	<p>はい、別に特に。</p>
<p>議長 (丸井幸次)</p>	<p>そうですか。岡田委員何か。</p>
<p>委員 (岡田邦夫)</p>	<p>6ページなんですけどね、下から3行目なんですけど市内の各地の企業っていうの、この市内っていうのは何を指して市内っていうのかな。6ページの自立的個性豊かな地域の創造の中で下から3行目に、ネットワーク化による企業誘致等の充実、市内の各地の企業って、市内いうのは何を指しているのかな。</p>
<p>事務局 (計画課長 岩坪純司)</p>	<p>新市の既存の企業っていう風な形でとらまえていただいたらよろしいかと思えます。これについては地場産業なんかも入ってくるかと思いません。</p>
<p>委員 (岡田邦夫)</p>	<p>新市って入れたらおかしいのかな。頭に新市との一体化って書いてるんでね。どうにも一般やったらこれ市内ったらそこら海南とか、和歌山市とか、泉佐野市とかって色んな形考えると思うんやけどね。この5町</p>

<p>事務局 （計画課長 岩坪純司） 委員 （岡田邦夫）</p>	<p>新市のことを指してるんでしょ。</p> <p>はい、おっしゃられるとおりです。</p> <p>ちょっと誤解招くところあのちゃうん。文面では。市内って入れたら。その流れの中ではあるんでしょけども。</p>
<p>事務局 （計画課長 岩坪純司）</p>	<p>はい、市内っていう中で和歌山市であるとか、他の海南市とかそういう風な格好で混同されるという風な形も考えられますけども、後のずっと関連の所ですね、例えば市内はそんなに出てこないと思うんですけども市民とかそういう風な形でもう新市になるということが前提になってきてますんで、市民であるとかそういう言葉も使ってございますのでその辺との整合性も考えていかないかなあという風には考えます。だからおっしゃられるように新市という風に変えていってもよろしゅうございますけども、その点他の委員さんの意見もうかがいたいと思いますので。</p>
<p>議長 （丸井幸次）</p>	<p>今岡田委員からちょっとご提案ありましたその市内の各地ということでこれはもう新市の各地という解釈でいいと思うんですけども、言葉の表現の中に新市内といれるかどうか、新市民とか入れるかっていうことやね、最終的に。そのへんどうですか。はい、どうぞ。宇田委員。</p>
<p>委員 （宇田寛）</p>	<p>私はこれ渡してもうた時にもう6ページの6行目のね、例えば紀ノ川、和泉山脈から始まって最後の地元での雇用力を高めていく可能性が高まりますというこの一連の文面からしたら市内でもええんと違うのかなと思って僕はもうそういう風な考え方をしました。</p>
<p>議長 （丸井幸次）</p>	<p>はい、わかりました。他に何かご意見ないですか。千田委員何か、これについて。はい、どうぞ。</p>
<p>委員 （千田弘）</p>	<p>単にこの点だけをとらまえたらと思うんですけど、その後も新市全体とか色々新市っていう表現がでておりますんでもうちょっとなんか考えていただいた方がいいんじゃないかなと思います。</p>
<p>議長 （丸井幸次）</p>	<p>はい、武部委員さんどうですか。今の件。</p>
<p>委員 （武部善次）</p>	<p>始めに新市ということで出てるので市内か新市内かっていうんであればもうなくしてもいいんと違うのかなと私は思うんですけども。</p>
<p>議長 （丸井幸次） 委員 （河上泰三）</p>	<p>はい。河上委員さんどうですか。今の件で。</p> <p>別にないんですけども、おそらくこの構成文まだまだ他にもそういうところは当然出てくると思うんで、大体ニュアンスとして受け止められればですね、文章の変更っていうのはやはり困難な部分が生じてくんの</p>

かなと思うんで、もっと色んなところでですね間違ってる部分とか、表現がおかしいぞという部分は多々僕は出てくるように思いますんで、この今のこの文言については別段意見はないんですけども。

議長
(丸井幸次)
事務局
(計画課長
岩坪純司)
議長
(丸井幸次)

わかりました。はい、事務局何か、どうぞ。

意見もちょっと違った形で出てますんで、

再度協議してもらえる、事務局で。どっちに統一するか。もう一回次回までに。委員さんの意見がちょっと色々ありますんで。

事務局
(計画課長
岩坪純司)
議長
(丸井幸次)

わかりました。

お願いします。

他に何かございませんか。これも事務局、序論と基本構想の変更点これでもう全部終わりかな。もう説明はそれでいいんですか。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

いえいえ、例えばですね3章の施策とかその辺が大きく、考えてたことよりも変わってくるとなったら当然この構想の段階の所も修正加えていかないかんという風には考えてございます。

議長
(丸井幸次)

はい。そしたら次計画策定の方針の方の変更等いつてくれる。どうぞ。他に今までの所ではもう別にご意見ないですか。はい、どうぞ。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

そしたら10ページから15ページにつきまして変更箇所等の説明をいたします。10ページでは(1)計画策定の趣旨の1行目特例法第5条第2項としておりました。これは第5条第1項の誤りでございまして、1項に変更をさせていただきます。また赤字で修正してますように基本構想、基本計画、実施計画を長期総合計画に改めたいと考えてございます。長期総合計画にはこうした計画が含まれるので表現上わかりやすいかという風に考えます。それからの期間も合併初年度開始年度とし、概ね10カ年としますということでした。これを平成、まだ年度わかりませんんですけども、平成年度から平成年度までの10年間とします。に変更したいと考えております。合併の期日につきましては第1回協議会におきまして平成17年3月31日までの日とする、ということをご確認いただいておりますが、特例法の改正法案がすでに国会を通過しており成立しておりますので、今後協議会には正式に再提案されると思います。この合併期日が決定次第年度を入れていきたいと考えてございます。

その他10ページにつきましては大きな変更点はございません。

それから11ページであります。11ページにつきましては文章表現の変更のみでございます。

12ページにつきましては藤永委員のご意見により、和歌山線の便数、

朝夕1時間2本、その他の時間帯は1時間1本程度を、ピーク時1時間3から5本、その他の時間帯は1時間2本程度に訂正をさせていただきます。その他大きな変更はかけてございません。それと主要道路の地図、非常にわかりにくかったわけで、今回より見やすいような形で主要道路網を入れてございます。

それから13ページの(3)の人口であります。4行目に文章で世帯数の状況を入れさせていただきました。それと、従業者の通勤状況を住民意識調査の結果に変更してございます。それと任意協議会で作成しました平成14年市町村合併意識調査における普段の買い物の状況でたたき案はしてございましたが、これを削除しております。それと各町の昭和55年から平成12年までの国勢調査による人口の推移表を入れしました。この4点を変更してございます。それから(4)の土地利用につきましては、平成14年固定資産税の価格などの概要調書を平成15年直近のものにおきかえてございます。それと補足的な語句を入れしましたことや、15年に置き換えたのが主な変更点でございます。

それから14ページ、15ページでございます。たたき案の文章を非常にわかりやすくするために補足的な語句を入れてございます。面積は先ほどの固定資産税の14年概要調書の面積で記載していたものを国土地理院で公表されてます面積に置き換えてますのが大きな変更箇所です。15ページには那賀5町の変遷図、前回入れさせて下さいということで事務局の方から提案させていただいたものを入れてございます。ただちょっとここでも赤で説明入れてますが、ちょっとわかりにくいんでこれはもう一回修正をかけていきたいという風に思います。以上です。

議長
(丸井幸次)

はい、ご苦労さんです。今の計画策定の方針についての修正案を説明していただいたわけなんですけど、何かご意見ございませんか。特に。あ、どうぞ。藤永委員どうぞ。

委員
(藤永知宏)

すいません。JRのことで私申し上げて訂正していただいているんですが、いわゆる粉河から和歌山方面はこのとおりでいいんですけれども、名手駅、粉河間から上の方は若干最初のと大方よく似てますんでね言葉として一部を除いてっていうとまた変な誤解を受けたいかんとおっしゃったんで、大体集約的にこのくらいの線が通っているということで了解していただけたらありがたいなと、私自身もそない思ってますんでその辺やっぱきちっと書かんなんと言われればそのとおりですし、そこたしを一つご判断いただけたらと思います。

議長
(丸井幸次)

はい、わかりました。ありがとうございます。ピーク時は3本から5本となっておりますんで大体その範囲に収まっているということですのでまあこれでいいと思います。特に計画策定の趣旨の中で今回は改めて基本構想、基本計画、実施計画を策定すると、文言の中を長期総合計画に切り替えたということです。これについても我々もう一度再確認しておきたいのは、この新市建設検討小委員会はあくまでも新市ができた時に改めて長期総合計画が作られます。それまでのその長期総合計画を作るまでの基本的な合意事項をこの建設計画で作っていかうということですね

委員
(武部善次)

でこのような文言に代えたということ、委員の皆さんに改めてもう一度ご理解いただきたいとこのように思います。これについて、どうぞ、武部さん。

12ページの下から2行目、また新市の北西約30キロには関西国際空港が位置し、私とこ新市になったって一番はずれになるんですけども、それ今まで関西国際空港は25キロ圏という、私記憶してるんです。で、一応いっぺんこれどっからしてるんかいっぺん、まいっぺん調べておいていただきたいなと思います。

議長
(丸井幸次)

事務局、それでよろしいですか。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

あの場所的に色々表現違いますんで、例えば5町でも面積的に広うございまして、この辺りの数字ですね、数字については十分もう一回検討かけたいと思います。はい。

議長
(丸井幸次)

もう一度事務局の方で検討してもらいたいと思いますんでそれでよろしいですか。他に何かございませんか。どうぞ、上野委員。

委員
(上野富一)

主要道路網の図面なんですけど、12ページの、この中で国道とかその他の主要道路とか通ってるんですけど、この中へ紀ノ川とか川の位置とかは入れられないんでしょうか。川の位置を入れられれば大体道がどの辺、川より上を通ってるとかあるのでこれはちょっと入れていただいた方がよろしいんじゃないかと思いますが。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

はい、検討します。

議長
(丸井幸次)

はい、まあそういうことでもう一回事務局の方で河川の位置についても地図の中へ落としていくということでもう一回検討してもらいます。他に何かないですか。ございませんか。じゃあないので次に第2章の基本構成の修正につきましてご説明をいただきたいと思います。どうぞ。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

はい、それでは引き続きまして19ページから24ページの新市の基本方針についてご説明いたします。19ページの(1)新市建設の理念と将来像であります、これも住民意識調査の結果をふまえて背景の中に説明を行っております。恐れ入りますがちょっと9ページ戻っていただけませんか。9ページの問9で5町の住民の方々が考えられています合併に期待する町の姿、将来像をグラフ化して掲載してございます。これによると私もちょっと意外であったのですが第1位に4、災害や犯罪、交通事故の少ない安全な町が入ってございます。近年5町では都市化が進み、道路網も整備され、人の出入りが頻繁になってきております。そうしたことから岩出所管内では犯罪件数も多く、交通事故の多発地帯でもあるということ聞いてございます。また今後東南海地震、

南海地震が発生するという事も予想されております。こうした状況を考えられてこの項目に意見が集中したかと考えてます。元に戻っていただきまして、こうした安全というようなことが非常に重要になってくるというか、住民の意見の中で上位にきてるわけなので、背景の中にですねこの安全とか安心、こういう風な文言を必ず入れていかなければならないということで、たたき案よりもそれらのことを強調しまして先に安全で安心な暮らしとこういう風なことを前に入れてございます。それから保健福祉のまちづくりでありますとか、自然環境面に配慮したまちづくり、道路公園等住宅環境が整ったまちづくり、産業活動が盛んで雇用機会の豊かなまちづくりが今申し上げた9ページの上位にきてるわけで、こうしたことを十分考えながら新市建設の理念や将来像を設定していく必要があるかと思えます。で、ここでは住民が合併によって期待が持てるまちづくりを進めていくことが重要です。また合併によるスケールメリットを出していくことも重要です。今後、社会的情勢も考慮していかなければなりません。っていうのは少子高齢化でありますとかそういう風なことを十分考えていく必要があるかと思えます。これらを総合的に考え、理念として取りまとめさせていただきました。なお、この項では宇田委員より生活道路の整備を入れた方がよいのではとのご意見をいただいておりますので、そのことにつきましては最後の6行目に生活道路の整備などという風なことを入れてございます。

次に20ページの将来像であります。ここでキャッチフレーズにつきましては前回の小委員会で色々ご意見いただきました。このキャッチフレーズにつきましても策定会議の中で十分議論いたしましたが、非常に一番簡単で実は難しいというのがこのキャッチフレーズでございます。今回3つ新たに案を考えさせていただきました。3つ目のやさしさ・健やか・活力 紀北の中核都市はちょっとキャッチフレーズには適さないかと思えますが、参考につけさせていただいております。これについても十分ご検討をお願いしたいという風に考えます。それからキャッチフレーズ以下の下段の文章は特に変更はございませんが、特に行政用語も使ってないということでございます。これについてもまたご意見がありましたら承りたいという風に考えます。

それから21ページ、23ページの所でございます。21ページから23ページの所でございます。(2)将来像を実現するための考え方があります。ですね。地域の活力を養うということですが、岡田委員より5町の一体化を担う生活道路について見えてきませんとこういう風なご指摘がございました。ここでは道路、交通整備網を促進すると共にという表現にとどめてますが、具体的には第3章の新市のまちづくり施策、主要事業で記載していきたいという風に考えてございます。またスローライフでありますとか、コミュニティビジネスこれについてはもう一つなんのことがよくわからなかったんで、下段に注釈を設けてございます。

それから22ページでございます。22ページにつきましては河上委員よりたたき案 人々がまちづくりを養う力を養うという表現が難しいので表現を変えた方がよいのではとこういう風なご意見を賜りました。今回これを住民主体のまちづくりを推進するに変更してます。また産・

学・官の取り組みについても 各分野間の連携促進でまとめさせていただきました。更にボランティアというようなちょっと難しい言葉もございますので、これについても注釈を加えてございます。以上が主な変更点です。その他文章表現についても多少修正をしてございます。以上です。

議長
(丸井幸次)

はい、ご苦労さんです。今事務局の方から新市建設の基本方針についての修正案を説明していただきました。これについて何かご質問ございませんか。ないですか。河上委員何か。どうぞ。

委員
(河上泰三)

すいません、ここ新市建設の基本方針ということですので、最初の章の第1章の最初の時にですね、意見を言うてないんでちょっと誠に心苦しいんですけども、どうもこの中今まで全般的にこうみてきたんですけども、若干今気づいたんですけど、建設するための合理性のメリットがもう一つうたわれてきてないような感じがするんです。その要するにこれで見たら新しい市の夢、新市の夢や構想なんてのはものすごくバラ色にふくらんでくるような文章なんですけども、例えばこれ企業、一般企業やとここで思い切った例えば普通の会社はリストラして経済的に例えば10年先、20年先にこういけるともう同じ失敗を繰り返さないというような形がもうそればかり、ほとんどがそれを占めて新しいその企業の形を多分書かれると思うんですけど、その部分をもう少し入れとく方がこの合併についてっていう、これがどこが漠然とどこにいれていいかっていうのはちょっとわからないんですけどね、要するに新市建設の理念の中に、理念と将来像に入れるのか最初のところに入れるのかということはあると思うんですけども、一般の住民はまたその新市になってその色々な合理性を追求するごとくまた色々な施設を増やしてっていうのはやっぱり審判として僕は見てると思うんですよ。この郡民の皆さんは、ですから新市になってどこをどういう風な贅肉やそんなに細かに贅肉という部分をすり、当然個々の部分では考えていくんだらうと思うんですけども、その辺その基本理念や基本構想に要は合理的に進めて今までじゃないんやという部分の意気込みがどうも文章にちょっと全般に感じられない、ちょっと懸念される点なんです。すいません。

議長
(丸井幸次)

河上さん、貴重なご意見ありがとうございました。これ今後その点については第3章、第4章で。これ今第2章までなんです、基本構想が。次の段階の第3章で新市のまちづくり施策とか主要事業とかこのよううたっていききたいと。第4章で公共的施設の整備方針、今既存の整備方針とか今河上委員さん言われる無駄を省いていこうと、そういう中で財政計画も出していきたいと。まああくまでもいうまあまだ第2章までですんで基本構想でやっぱり夢を出していこうということですので。今後その第3章で今河上委員さん言われたようなことを議論していきたいとこのように思いますんで、その点ご理解いただきたいと思います。

委員
(河上泰三)

1章で言い忘れたんかなと思って。

議長
(丸井幸次)
事務局
(計画課長
岩坪純司)

そういうことですので。事務局今のについて何かご意見ないですか。

住民意識調査のところなんですけども、住民意識調査でちょっとお待ち下さい。問7で那賀5町が合併するとしたらあなたはどのような効果を期待しますかということで2つまで回答下さいということで、これは中間報告の時にもお話しさせていただいたと思いますけども、一番やっぱり多いのが町長や議員数、職員数の減少によって経費節減につながると、これが一位です。ぶっちぎりの一位です。行政事務の効率化によって経費節減につながるということで、やはり合併については行政のスリム化であるとか、行財政の効率化、これを一番住民が望んでおられるということが事実なわけでございます、これをその構想の中へどういう風に放り込んでいくかというのは非常に難しいわけでございますが、例えば3ページの辺りの合併の必要性と効果とかこの辺でぼろぼろとは出してございます。それと那賀5町合併によって期待される効果は6ページですね。ここののところでもダイレクトには出してはないんですけども、そういう風なことで一元化を図れるとか、事務の一元化を図れるとかそういう風なことを入れてございますので、一番強調すべき部分ではあります、委員長もおっしゃられたように3章、4章、4章は特にあれなんですけども、3章の主要施策とかそういう風な中では十分そうした意図をくんで入れていかないかなという風には考えてございます。だから1章、2章の辺りではもっと掘り下げて入れていくべきかということもありますけれども、それら3章の辺りで十分調整を取りながら、もしそこでうまいこと入れられんという風になりましたら1章、2章の辺りでもう一回考えてみたいという風に考えます。以上です。

議長
(丸井幸次)

具体的なその主要事業とか施策について盛り込んでいきたいと思えます。その中で今言われるようなことを、どのような形でいれていくかと、これまたこれから議論してもらわないかと思えます。一応事務局からたたき案をこしらえていただきますんで、それについてまた協議をお願いしたいと思います。それでよろしいですか。他に何かご意見ございませんか。はい、どうぞ宇田委員。

委員
(宇田寛)

あまりようわからんのやけども、このキャッチフレーズですね。今度新たにやさしさ・健やか・活力 紀北の中核都市というのを入れてくれましたね。一番上の自然のキャンパスに人びとが美しい暮らしを描く文化・交流創造都市というのがでてるわけやしよな。その次にまた元気で安心、そして交流の輪がひろがる文化創造都市、自然の中で人びとの輪がひろがる文化・交流創造都市っていうのはちょっとここらだぶってはせんかいな。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

あの実はですね、ちょっと説明不足だったかもわかりませんが、前回たたき案で出ささせていただいたのは、一番上の自然のキャンパスに人びとが美しい暮らしを描く文化・交流創造都市とこれをつけておったんですけども、色々意見が出ました。2行くらいでわかりやすい文面にしたらどうよとか、そういう風なことが委員の皆様から出ましたので、

議長
(丸井幸次)

今回その元気で安心、そして交流の輪がひろがる文化創造都市、それから自然の中で人びとの輪がひろがる文化・交流創造都市、そして先も説明しましたけどもう一つ、キャッチフレーズとしては適切ではないかと思えますけども紀北の中核都市と、この3つ一応考えさせていただきました。今回これをどれを選ぶとかについてご協議いただきたいということで、案を3つ出してございますのでよろしくお願いいたします。

そういうことなんです。前は自然のキャンパスに人びとが美しい暮らしを描く文化・交流創造都市と、その中で美しい暮らしというのはどういうことなのかって色々話でましたんで、他にたたき案がこう今出てきたということですので、今日できたらこういう中で若干文言の変更はしてでもキャッチフレーズを決めていきたいなと思ってるんですけども。これについて委員の皆さんにご意見をお伺いしたいなと思えます。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

委員長、ちょっとよろしいですか。

議長
(丸井幸次)

はい、どうぞ、どうぞ。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

先ほど説明の中でも安全面であるとか、そういうことが上位にきてるといことも考えて、2番ですね元気で安心とかそういう風な文言もちょっと入れさせていただいたことを付け加えさせていただきます。

議長
(丸井幸次)

はい。これについて何かご意見ございませんか。ここのキャッチフレーズが一番大事になってきます。新しい新市の位置づけですね、どのような市を目指していくんかというキャッチフレーズの中へ全部凝縮されるということも考えられますんで、新しい新市の市民の皆さんにそういうことを理解してもらわなければいけないところだと思います。この辺が一番重要になってくると思うんで、委員さんに色んなご意見をお伺いしたいなとこのように思ってますので。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

委員長ちょっとよろしいですか。

議長
(丸井幸次)

はい、はいどうぞ。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

当然最終的にはちゃんとした計画書という風なことを考えております。ここのキャッチフレーズ概要版で当然載せていきますので、それは当然住民説明会なんかでも使いますので、それらも含めてちょっとご検討いただきたいという風に考えます。だから概要版として考えてるのはこの新市の建設計画の方針、それからキャッチフレーズ、それと21ページの考え方、それから今後具体的な施策入ってくるわけですけども、こういう風なところが当然概要版の命になってくるということもちょっとご念頭に置いていただきましてご検討よろしくお伺いしたいという風に思います。以上です。

議長
(丸井幸次)

はい、どうぞ。すみません、ちょっと休憩しましょうか。じゃあ暫時休憩いたします。

(休憩 午後3時50分)

(再開 午後4時00分)

議長
(丸井幸次)

休憩前に引き続き再開をいたします。今このキャッチフレーズの件でございますけれども、今河上委員さんも言われましたとおり非常に大事なことでございますので、一応事務局のたたき案はこの4案が出てきております。これは最終的に決定をしていきたいと思っておりますので、今日はこのまま皆さんに持って帰っていただきまして、またじっくり考えていただきまして次回にご意見を拝聴いたしたいと思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。それでよろしいですか。

委員

「はい。」の声あり。

議長
(丸井幸次)

はい、ありがとうございます。新市建設の基本方針について他にご意見ございませんか。

委員

「ありません。」の声あり。

議長
(丸井幸次)

はい、特にないようですんで次に主要指標の見通しとそれから土地利用構想について、それから新市発展プロジェクトについての修正項目について事務局の方から説明していただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

はい、それでは25ページ以降の所をご説明いたします。25ページに主要指標の見通しであります。たたき案ではコーホート要因法による2030年、平成42年までの総人口と年齢3区分別人口の推移表をつけさせていただきまして、ご検討していただきました。丸井委員長の方からですね、人口が減少していく計画はどうかというような意見もいただきました。今回は新市になってからのその長期総合計画との関係も考えていかなければならないんですけども、計画一応10年というような中で動いてございますので合併後10年後、2015年の総人口を72,000人、総世帯数を24,000世帯というような目標値を設定させていただきました。宇田委員の方から国、県の人口推計はとこういう風なご質問がございましたので、本日委員皆様のお手元に資料を置かせていただいております。それをちょっとご覧下さい。那賀5町の状況は今説明申し上げたとおりの数値を25ページの数値を掲載しております。国、県の状況につきましては、めくっていただきました国立社会保障人口問題研究所から出されてございます都道府県の将来推計人口、これ平成14年の3月に推計したものなんですけども、それを抜粋させていただいております。那賀5町は国、県に比べ人口減少となる時期が遅れてるということがここではわかります。また減少率もこの地域低く

なってるということがわかっていただけるかと思えます。いずれにしても、社会要因であります人口流入これがないと確実に今後人口が減少していくというような状況になりますので、この数値についても十分検討が必要かと考えます。6月10日付の朝日新聞に女性一人が産む子供の平均数を示す03年の合計特殊出生率が1.29人という風に戦後最低になってるという記事も出てございましたが、これは研究所の予測推計よりも1年早いペースで推移してるということからより一層この減少率に拍車がかかるという風に考えてございます。従いまして、一応平成32年、2020年のコーホートでは69,672人とこういう風な形の推計でございまして、10年後の人口は70,391人でありませうけれども、冒頭の文章でも書いてございませうように色々施策を講じることにより72,000人を目途にまちづくりを進めていくということでご理解いただきたいというように考えてございます。

それからめくっていただきまして26ページでございませう。ここでは土地利用構想であります(1)の整備方針の全体方向であります(1)が、上野委員よりご指摘いただきました農地についての記載で果樹の文言を削除するということをしてございませう。それとため池などの生産基盤の整備と都市との交流を推進するということも追加してございませう。工業用地についてもただ企業が来ていただくだけではだめですよということで、雇用促進も追加した形の文章に変えてございませう。

恐れ入ります、次27、28ページでございませう。(2)の新都市の構造であります(2)が、都市軸の設定は特に大きな変更をかけてございませう。千田委員より桃山かつらぎ線の位置づけが不明確とこういう風なご意見をいただきましたが、軸という考え方は大きな視点から設定していくのが通常の姿であるかと考えます。またゾーンについてもある程度大きな範囲で設けていく必要がございませう。委員おっしゃるとおり桃山かつらぎ線は奥安楽川地区、それから鞆淵地区を通る主要路線であり、今後地域の発展を考えるなら整備促進が必要でございませう。こうしたことからゾーンの中の中山間ゾーンには抽象的ではありますがその旨記載してございませう。都市軸としては5町全体の状況を考えていくなれば、南北交流軸に含めることがちょっと難しいかと考えます。なお、今後第3章新市のまちづくり施策、主要事業には当然具体的に路線名も入れ整備の促進を盛り込んでいきたいというように考えてございませう。続きましてゾーンであります(3)が、河上委員よりご指摘のございました打田町の工業団地は山麓農工ゾーンに、桃山町の工業団地は市街地複合ゾーンに記述を行いました。その他の大きな修正は行ってございませう。

最後になりますけれども4新市発展プロジェクトでございませう。31ページです。(1)いきいき人・まちプロジェクトにつきましては、宇田委員より学校教育、社会教育のあり方をもっと入れていくべきとのご意見を頂戴いたしました。これにつきましてはいつでもどこでも学べる生涯学習社会の形成の3つ目に追加をさせていただいてございませう。また上野委員よりご意見があった子どもたちのスポーツ振興については、健康で活力あふれた体づくりの支援の中で3つ目に追加をさせていただいてございませう。以上が31ページの変更点です。

32ページの(2)きらきら土・水・緑プロジェクトにつきましては、

	<p>上野委員よりグリーンツーリズムを全面的に出していったらとこういう風なご意見もいただきました。これにつきましては、農林業の高次化推進の最初で文章表現を変更させていただき、かつ注釈をつけてございます。その他大きな変更は行ってございません。委員の皆様からいただきましたご意見、ご提言を元にまた事務局策定会議で議論を重ね、変更したところをご説明申し上げました。以上でございます。</p>
<p>議長 (丸井幸次)</p>	<p>はい、ご苦労さんです。ただ今事務局の方から主要指標の見通し、それから土地利用構想、それから新市発展プロジェクトについての修正案を説明していただきました。これについて何かご意見ございませんか。ないですか。岡田委員何かないですか。どうぞ。</p>
<p>委員 (岡田邦夫)</p>	<p>すいません、いきいきまちづくりのプロジェクトの中で社会参加と生きがいのまちづくりの支援という主要事業がございます。多分コミュニティ等のおけるまちづくりの活動の支援ということで大きくうたわれると思うんですが、コミュニティっていうのはあまりにも大きすぎてこれはもう皆さんもご存じのとおり競争意識の中で成り立つもんやから、市民の雇用活動、またはシルバー人材等と入ってるので、できればそのボランティアの育成支援も入れてもらえたらなと、どうでしょうなこちらのところは。全てがそのいうコミュニティの中へ広域活動も、もちろんNPOかつシルバー人材も当然入っていくと思いますんで、できればそういうことはちょっと具合悪いかなと思ってるんですが。</p>
<p>事務局 (計画課長 岩坪純司)</p>	<p>特に問題はないかと思えます。あえて入れていくという風なところはですね、今委員おっしゃられたようにNPO活動、これとかボランティア活動これが一緒の項目で上がってくるのが通常的な考えた方でございますので広域活動と合わせてボランティア活動も入れていったらよろしいかというように考えますので、検討していきたいと思えます。</p>
<p>議長 (丸井幸次)</p>	<p>はい。岡田委員そういうことで一応事務局の方でもう一度検討していただきまして、ボランティア活動についても挿入していきたいとこのように思います。他に何かご意見ございませんか。</p> <p>特に先ほど事務局から説明ありましたこの人口の動態ですけども、今のままでいくと当然減少になってくると、基本構想の中に人口減少でいいんかという議論があったわけなんですけども、合併してから長期総合計画を策定していく中でやはり人口増を図るための諸施策っていうのを考えていかなければいけないと思えます。ただ今現況は今のままだったらこういう推移ですと、72,000人ぐらいで抑えるべきだというような意見でございました。一番この辺が大事になってくると思うんですけども、将来の人口増についてはやはり新市になってから色んな施策の中で考えていくっていうことが大事だと思います。この点に付いても何かご意見ありましたらうかがっておきたいと思えます。はい、どうぞ宇田委員。</p>
<p>委員</p>	<p>人口の将来的な減少、これは国、県とか全体的に見て減少していく中</p>

(宇田寛)

での比較検討になってきてその中ではまだ那賀5町については比較的減少率が少ないというようなことで理解ができると思うんです。ただこの25ページの総人口と年齢三区分別人口という表がありますが、これはもう当然国なんかでも公表される時にはこういうされ方をしてるわけです。ただ少子高齢化というのが盛んに言われて、高齢化によるやはり産業の低下とか色んな構成比等の負担増ということが表立っていわれる訳なんですね。僕はここで入れていいんかどうかわからんですが、この65歳以上という高齢者という枠作りなんですね。これはもう厚生労働省がいわゆる高齢者を65歳以上高齢者とするというような概念です。ときてるわけなんですけど、我々の今の環境を見てもですね65歳以上が果たしてそれが高齢者なんか、という僕は疑問をもってるわけなんです。僕は65歳から75歳くらいまではね高齢者とは今は言えぬと違うんかと、いわゆる労働力としてもかなりの力を持ってるんじゃないか。従ってそういう区分が僕はあってもええんと違うんかなという気はしてるわけなんです。これはあくまで私の意見なんですけど、そういうことなんです。

議長

(丸井幸次)

はい、ありがとうございます。今確かに言われることが今の現代社会では当然産業の特にこう農村地域の産業の中の労働力の中では65歳以上の方でまだまだ十分中心的な役割を果たしてるということも、十分考えられます。そういう中で基本構想の中ではこういう風に指標では示していきたいと思えますけれども、また第3章の中でそういうただ高齢者がこういう位置づけだということまでは、なかなかしぬくいと思うんですけども、高齢者の方も主産業に十分携わっていただけるようなそのような計画っていうことも必要かと思えますんで、事務局その点また第3章、第4章の中で配慮して案を作ってくださいませんか。宇田委員そういうことでよろしいですか。

委員

(宇田寛)

はい。

議長

(丸井幸次)

貴重な意見と思います。はい、どうぞ。

委員

(岡田邦夫)

今委員長の方から人口の数字の件なんですけどね、今社会的にもかなりこの人数的なことがものすごく目玉になってきてるんで、この数字と世帯数が果たして適正にここに入れてもいいかどうか、もちろん定住性をもったそのいう前向きな形の中で、どこまで住民の方々に理解してもらえるような説明が得られるかということもあると思うんで。ただ単語でどう表はこないなってるのにまた72,000で国と同じような考え方じゃなあ、仮にそういうことやったっていうような形も出てこんとも限らんと思うんでかなりここの人数とそのいう世帯数の問題については前向きな関係の努力はどこまでそのいうピーアールできていくか、または理解を求められるかっていうのが大変難しいと思う。ここのもちょっと数字的に正しいかどうか、これは文はどうこうじゃなしにやっぱりこの社会的な感覚の目でメディアの中でちょっと難しいところも出てくるんじゃないかなと思うんやけどね、そこらどうでしょ。

事務局
(計 画 課 長
岩坪純司)

はい、委員長よろしいですか。一応こういう風な目標値を設定させていただいてますけれども、計画書、他の合併協議会なんかでも3町なり、5町なりたくさん町が寄って合併していくというところもございます。こうしたところは、実際コーホート要因法で減少の数字を表して、ただその目標値を設定しないで人口を減らないように努力するとかそういう風な文言に実際変えているところもございます。だからそこら非常にこの人口の数、世帯の数出していくことは果たしていいのかなとこれも策定会議の中でも議論あったわけですけども、減っていく計画というのはどうかなというような強いご意見もございましたので一応目標値これぐらいだったらどうかなということで今回出ささせていただいてますので、出す、出さんについても十分検討をしていただいたらよろしいかと思えます。はい。以上です。

議長
(丸井幸次)

はい、今事務局から説明があったとおりだと思います。なかなかこの人口を具体的に出していくっていうことになると、非常に難しい問題が出てくると思います。ただ私先ほど言いましたとおり、あくまでもこの新市建設検討委員会はその合併をしていくための指針づくりという風に解釈をしていただきたいと思います。人口については現況はこうですよと、やはり合併して新しい市になって人口が増えるっていうことが大きな目標になってくると思うんです。それはやはり独自の施策をやっていかないと今のこの出生率から言いますと当然人口が減ってくるこれももう当たり前のことなんで、だからそれをやはり新しいまちの中で具体的な施策を出して人口増加を図ると、これがまあ新しいまちの中での長期総合計画になってくるんじゃないかなと私は解釈してるわけなんですけど、だから今のままだったら平成27年ですか2015年には70,391人と若干減少傾向に入ってくるということがこの数字から伺えるわけなんですけども、これはこのまま出して今はこうですよと今後今の出生率からいきますとこのような数字で推移していきますよと、だから新しいまちになって人口減らさないような施策を考えていきましょうよという風なことも一つの提言になってくると思うんですけど、我々の委員会としたら。そういう程度の文言ではいいと思うんですけどね。どうですか事務局。難しい話やけど。

事務局
(計 画 課 長
岩坪純司)

目標値外すっていうのは簡単ですね、文章的に具体的な事業3章の中へ盛り込んでいく中で人口維持していくという風なことも考えられますので、あえて72,000人だとか24,000こういう風な目に見える数値を出していかなくてもというような考え方もできることは事実です。はい。

議長
(丸井幸次)

ただやはりなんか指針がなかったらねっていうことで数字を載せたっていうことなんですけども、その点他の委員さん何か、河上委員さんなご意見ないですか。

委員

いや、僕はええと思うんですよ。どちらでもいいという意見なんです

(河上泰三)

けど、先程来もちょっと発言さしてもうた時に夢、新市についての希望の計画ですよね。その中でこの人口見通しなんていうのは住みやすいまちになりゃあ72,000人になれるというやっぱりその目標は一つの希望という形では僕はさほどかけ離れた数字ではないんでいいと思います。先ほど説明した要するに今のその合併の部分、第3章っていうことですからその部分ではまたご意見を出ささせていただきますけど、ここの第2章のこの人口の部分では私はこれでも十分問題はないんじゃないかなという風に思います。

議長

はい、武部委員さん何か。

(丸井幸次)

委員

(武部善次)

はい、私も事務局から先ほどいっことも載せてないという町村もあるようですが、私はやはりこうして目標を載せとくしかいいんではないかな、それに向かってまた新しい市で色々な事業に取り組んでいただいたらとこのように思いますので、私もこれでいいんじゃないかなとこのように思います。

議長

はい、ありがとうございます。宇田委員さん何か。

(丸井幸次)

委員

(宇田寛)

事務局えらいくどいようなんです、この65歳以上の推移がですね平成22年で16,900ちょっとそれから27で18,800約2,000弱増えてるわけですね。逆にその15歳から64歳が2,000人ほど減ってるというような推移のデータですね。従ってね僕は先ほど言うたように、65歳から75歳までの人口がどういうこの増えてる割合で2,000人の増えてる割合でその割合がその65歳から75歳までと、75歳以上とでの増え方がどんなかと、それによってね例えば65歳から75歳までの人の増え方がかなり大きくて、75歳以下の方はそれほどでも増えてないということなら65歳から75歳までの年齢の人達をどう、どのようなボランティアでもいいしそれからいわゆるアルバイト的な自分の過去の経験を生かした仕事につけるとかそういうような方策というものがあるいは出てくるのと違うんやろか。僕はそんな気をするわけなんです。その増え方が65歳以上というくくってもたら2,000人も増えるんや、45歳以下は2,000人も減るんやということになってしまうとですね後のそれに対する政策なり、対応の仕方というものがかなり変わってくるのと違うんかなという僕はそんな気がするものですからそれをちょっとくどいようですが言うてます。以上です。

議長

はい、ありがとうございます。どうぞ、どうぞ河上さん。まだ意見あったらどうぞ。

(丸井幸次)

委員

(河上泰三)

宇田さんの今ご発言があった気持ちはようわかるんですけど、それも第3章とか細かい部分、第3章か4章かはわかりませんが細かい部分ではそこら辺のこだわりが入ってもええんやないかな。ここの部分では議長、あの委員長一般的に見る一般的な人が見るという意味では65歳以上でくぐりをつくって、宇田さんには申し訳ないですけどこれであの

細かい部分では皆意識をしていったらいいと思うんで、先ほど言われた人口の問題、岡田委員さんから言われた問題での人口見通しの発言の場ですので、その辺でもう進めてまとめていただいたらいいと思うんですけど。

議長
(丸井幸次)
委員
(千田弘)

千田委員さん特にご意見ないですか、あればどうぞ。

先程来の武部委員と同じような意見ですけども、あくまでも現況のもので各町村がいけない、新しいまた合併した中で新市を築いていくというこういう将来の見通しであればあくまでもやはり目標値、こういう事業をしてこういう風に一個の市として今後していけるような、またそれによって市になれば市民が色々な方面で安心して生活できるという計画の中で、あくまでも統計的に見ればこういう風に人口が減りますよ、このままの状態では当然人口が下がり色々なものが低下していきますからこういう風にしていくという形でえらいんですけども、最終こういう目標値をもってあくまでも新市を建設していくという方がいいように思います。

議長
(丸井幸次)

はい、ありがとうございます。他に何かこの点についてご意見ないですか。人口問題はそういうことで一応このような数字で構想としたらこの数字でいくということ。はい、わかりました。他に何かご意見ございませんか。ないですか。

委員

「ありません。」の声あり。

議長
(丸井幸次)

ございませんか。ないですか。じゃああのご意見が特にないようでございますので、この序論につきまして或いは基本構想につきましては本日委員の皆様からお出しいただきましたご意見を参考にいたしまして、改めて修正をしていきたいとこのように思います。また次回の委員会からは先ほど説明いたしておりますとおり、第3章の新市のまちづくり施策、主要事業についても協議を進めて参りたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

では、次に事務局より先日の住民意識調査の結果報告と財政シミュレーションの取り扱いについて、委員の皆さんに特にお願いしたいことがあるようでございますので、事務局の方から説明を求めたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局
(計画課長
岩坪純司)

はい。それでは今議長の方からもお話がございましたように、住民意識調査、まちづくりアンケートにつきましては第2回小委員会で5月10日事務局到着分の速報値について概略を説明申し上げました。先ほど新市建設計画基本構想でも一部紹介をさせていただいてございますが、現在最終の分析、校正を行っているところでございます。また最終の締め切りを5月21日にさせていただき、できるだけ多くの住民意向を報告書に取りまとめていきたいということで現在まで事務を進めてきております。協議会スケジュールでも6月24日に開催予定の第4回の協議

会には、協議会委員全員に説明をしていくということであり、本日の小委員会であらかじめ小委員会委員の皆様方にご報告を申し上げ、ご了解をいただいて協議会にご報告するのが順序でございますが、今申し上げましたように作業が若干遅れてございます。大変申し訳ございませんが、協議会で一括してご報告をしたいと考えておりますので、これについてご協議をお願いします。なお数値につきましては中間報告数値と大きな変化はございませんが、最終の有効回答数は6,343枚で率にしまして45.6パーセントとなっております。従いまして中間報告数値よりも2ポイントですが、2ポイント程度高いということで最終の集計を現在行っているところでございます。

もう一点が財政シミュレーションであります。これにつきましても現在各町財政担当職員と事務局で平成36年までの財政推移について作業を精力的に行っております。内容につきましては平成15年度決算見込みをベースにし、合併しなかった場合の推計と合併した場合の推計に種類を比較検討し、協議を重ねてございます。財政問題は誰もが一番関心のある事項でございます。また合併議論の中心になる事項とも言えます。作業は現在最終調整を行うまでの段階に入っており、近く委員皆様にお示しさせていただけるかと思っております。これにつきましても小委員会委員の皆様にご報告し、協議会に諮っていくのが本来の形ではありますが、作業状況等もご考慮いただきまして6月24日の協議会に間に合えば協議会委員全員にご説明したいと考えておりますので、これら2点について協議をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

議長
(丸井幸次)

はい、ただ今事務局の方から住民意識調査の結果報告と財政シミュレーションの取り扱いについて説明をいただきました。これについてご意見は何かございませんか。住民意識調査につきましては今説明ありましたとおり第2回の時の小委員会で報告させていただきました数値とそんなに大きな変化はないと思っております。ただ回収した枚数が2パーセントほど上がっているということでその上がりましたので分析の作業が若干遅れておりますので、その点ご理解いただきたいと思っております。またあの財政シミュレーションにつきましても今現在各町の財政担当職員と事務局の方で細部の調整を行っている今説明がございました。本来ならばこの小委員会を経た後に協議会の報告していくのが順序ですが、住民意識調査については合併後のまちづくりのあり方、或いは現在の状況等が明確に出ている資料でありますので、財政シミュレーションにつきましても5町の財政がどうなっているのか、或いは合併すればどのように推移していくのか等これはやっぱり合併協議会の委員全員が一番関心を持っている事項と考えます。こうしたことから委員全員が集まる協議会で報告をしていきたいと、或いは共通認識を持っていきたいとこのように考えます。事務局もそのように案を持っているようですので、次回の6月の24日の合併協議会でこの住民意識調査の分析内容、それから財政シミュレーションについても諮っていききたいと、ご報告していきたいということですので一つその点ご理解いただきたいとこのように思います。これについて何かご意見あればうかがいたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。財政シミュレーションって6月24日までにはできる、調

事務局
(計 画 課 長
岩坪純司)

整。

恐らくいけるかと思います。細部の調整まだ詰めておりますので数字的に決算見込みということでございますので非常に数字についてはもう決算時期でもありますので、それに近い数字でお示ししていけるかと思っておりますので、はい、よろしくお願いいたします。

議長
(丸 井 幸 次)

財政シミュレーションは14年度、失礼15年度の決算見込みで出してきたんですよ。今15年の決算今出してますんでできるだけその近い数字の中でシミュレーションしていきたいと、それと16年度各町で予算作ってますわね、だからその予算も加味した中で16年度の予算の編成も加味した中でシミュレーションが若干変わってきますんでねそういうことで作業が色々調整してると思うんです。そういうことで今日お示しをできなかったっていうのが現況です。だから14年度の決算でシミュレーションは出るんですけどもそれじゃもう一つ将来的な中では変更が出てくるであろうと、だから15年の決算見込みとそれから16年度の予算をたてて各町がたてている予算見込みを含んだ中で財政シミュレーションも出てくると思います。そういう点でご理解いただきたいとこのように思います。はい、どうぞ。

委員
(河 上 泰 三)

7月やったら遅いですよね。

議長
(丸 井 幸 次)

委員会ですか。

委員
(河 上 泰 三)

いやいやその財政シミュレーションなんかの資料は6月の協議会に時期的にはやっぱり出した方がええんですよね。

議長
(丸 井 幸 次)

そうです、そうです。

事務局
(計 画 課 長
岩坪純司)

よろしいですか。できるだけ早い時期にということで委員皆様方にもご説明申し上げてございます。やはりこれについてはこの小委員会の委員さんだけじゃなしに、全員に今の現状はこうですよということもわかっていただく、合併すればこういう風に推移していくということもわかっていただく必要がございますので、一括でご説明申し上げた方がよろしいかと思ひまして、そういう風な形でご提案させていただいたんですけども。

議長
(丸 井 幸 次)

先ほど私も説明しましたとおり、この財政シミュレーションは全協議会の委員さんやはり一番関心持ってることだと思いますんで、その時に説明をさせていただきたいとこのように思います。

委員
(河 上 泰 三)

いや、すいません私もくどいようでも誠に申し訳ないんですけど、それは財政シミュレーションはもう専門家の方が出していただけるんですからそれはええんですけど、要はその小委員会で審議された内容とかが協議会で出てきてるといふ他の委員会さんとか、メンバーさんが認識ある

じゃないですか、その部分が僕自身は引かかるだけのことでね、ですから7月でだめなのかって聞いたのはもう一回そういう資料をですね、それに対して私なんかは意見ようださんかもわかりませんが、一応委員会が通って出てきて報告事項という形で出てくればですねもう一回再度協議事項にでてくるとないと思うんですよ、その資料は。その所が僕はちょっと引かかるんでそれやとその委員長を始めとするですね、そんないい資料は出てくるとは思うんですけども顔がなくなるんやないかなという懸念が僕個人としてはもってるんですよ。

議長
(丸井幸次)
事務局
(参与
小島大)

はい、どうぞ。小島さん。

ちょっと説明不足の点もございましたので、重複になりますがもう一度ご説明させていただきます。まずこの小委員会でやっていただく今作業、やっていただいているこの建設計画で、当然財政計画もこの後やっていただくこの建設計画に基づく財政計画を作っていただくということになるんですが、そこで同じような言葉が出ますのでややこしいんですが、財政シミュレーションと財政計画と実は二つあると思って下さい。財政シミュレーションっていうのはいわゆる合併せずに今の状態で推移すれば今後こうなるであろうと、で合併した場合に合併した場合としない場合との比較になるわけなんです、合併しない場合にはこういった財政計画を反映させてこうなるとは当然まだできないわけです。ですから自然体で合併した場合に合併すれば特例債なんかこういうの使えますよ、国からの補助金はこういうのありますよ、交付税の特例もこういうのありますよ、というそういったもうすでにお約束されてる部分ですね、その部分だけを入れて合併したらどうなるということなんです。その中でその財政シミュレーションの内容を見てですね、その協議というものの中身も変えていかないといけない可能性も当然あるわけでございますので、これは早くに皆さんにお知らせしたかったんですが、先ほどの説明でも申し上げましたようにできるだけ直近の数字を使う方が良からうということで15年の決算見込みという数字を待たしていただいて、できるだけはやくということで今ほぼ作業が終わったということでございまして、河上委員さんが特にご心配されてるこの委員会が言えば軽視されてるんじゃないかということではなくてですね、言葉適切じゃなかったら申し訳ないんですが、そういうことじゃなくってこの後その財政シミュレーションふまえた中で、財政計画っていうのを皆さんでご議論していただく作業をお願いしたいということでございまして、その辺がちょっと同じような財政という言葉が二つきますのでややこしいんでちょっとくどい説明でございまして、よろしくご理解いただけるとそう思います。

委員
(河上泰三)

私はあのそういう部分の報告っていうのは協議会の時に事務局報告でもええんやないかなと思うわけですよ。それがその報告事項の中に全部全て入ってくる、全て入ってくるんでその報告が要するに皆さんにお目通しする資料を小委員会で審議された内容なんか、それとも一般資料として皆さんに配布したいのかどうかという報告事項が一つしかないん

事務局
(計 画 課 長
岩坪純司)

で、それを二つ例えば事務局報告みたいな形でとられればいくら出して
いただいても、そういうその意見をきかんでも僕はいいんじゃないかな
と僕は思うんですね。そういうことなんです。

はい、議長すいません。今おっしゃられたように委員会報告っていう
のは毎回この状況を協議会の方で報告さしていただいています。今回今お
っしゃられたように、シミュレーションとアンケートこれについては事
務局から報告さしていただくということで、ご理解いただきたいと。

議長
(丸 井 幸 次)

先ほどから説明ありましたとおり財政シミュレーションと財政計画と
はべっこのもんなんですあくまでも財政シミュレーションっていうのは
合併しなければ各5町が10年後にはこうなりますよと、合併すればこ
うなってきますよというそういう数字が出てきておりますんでそれはな
ぜ全員の協議会の中で出したかっていうのは全部関わってくるんです
よ。っていうのは新市の事務所の位置とか今度新しい事務所、本庁作る
んかとかっていうこう議論やっていますよね、他の委員会でも。だから議
員定数のあれもやっていますよね、全部。だからそういう中で関わってき
ますので財政シミュレーションが、だから私どもの新市の建設検討委員
会だけじゃなしに他の委員会にも関わる資料でありますんで全部出した
いと、みんなの所で出した方がよかるという判断がありましたんで私。

委員
(河 上 泰 三)

逆に言うとね、私らも例えば事務所の委員会から出てきた報告に対し
て意見を言うじゃないですか。それがその小委員会で実はやってないよ
というたらその人らに非常に申し訳ないなという風にもものすごく心苦し
く思われるんですね。だからそれは色んな議論された内容っていうこと
になりますけど、今言われた資料なんかはもう当然委員会にきかんでも
出したっていう資料は絶対あると思うんですよ。それは別に報告をも
う一つ協議会の式次第に付け加えればですね簡単に出せると思うんです
けど、そういう風に思います。

議長
(丸 井 幸 次)

その点はもう今度事務局からの資料提出ということで、委員会じゃな
しに事務局から財政シミュレーションと住民意識調査の分析結果につい
ては出していきたいとこのように思います。当然我々はその資料に基づ
いて今後第3章、第4章の主要施策とか主要事業についてそれに基づい
て、ここでまた議論をしていただきまして最終的に財政計画まで我々入
っていかねばいけなないとこのように考えてますんでその点ご理解を
よろしくお願い申し上げたいと思います。他に何かご意見ございません
か。

ないですか。ございませんか。じゃあ特にご意見がないようなんです
先ほどから議論ありましたとおり6月24日に開催されております第4
回の合併協議会の報告事項で委員皆様にご報告させていただきたいと思
いますのでよろしくお願い申し上げます。そういうことでよろしゅうご
ざいますか。

ありがとうございます。では住民意識調査結果報告につきましては
合併協議会で発行いたしております広報誌、合併協議会だよりも掲載

事務局
(計画課長
岩坪純司)
議長
(丸井幸次)

をしていきたいと思ひます。その点もご了解いただきたいと思ひますのでよろしくお願ひ申し上げます。事務局他に何かございませぬか。

はい、特にございませぬ。

はい、委員の皆さんも特にないですね。特に意見がないようございませぬので会議次第第6番の次回の開催日日程に移らせていただきたいと思ひます。次回の小委員会は7月16日金曜日、午後1時30分からこの打田町の保健福祉センターで開催する予定となっておりますが委員の皆さんのご都合はよろしくございませぬか。7月16日午後1時30分から開催をさせていただきたいと思ひます、よろしくございませぬか。

委員

「はい。」の声あり。

議長
(丸井幸次)

はい、じゃあよろしくお願ひ申し上げます。これで一応今日の議事日程は終わったわけなんですけれども、委員の皆さん、又事務局で何か特にないですか。ございませぬか。

じゃあないようございませぬので本日の会議はこれで終わりたいと思ひます。長時間にわたり熱心な議論ありがとうございました。又次回もよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。